

~~~~リリマ訪問記 望月 優子~~~~

去る2月21日火曜日、竹内緑さんと共にリリマへ向かった。目的は、緑さんが活動される拠点とスタッフ、支援をしてきた女性たちに会うために。



左から、カウンセラー、ソーシャルワーカー、望月さん

ミルク一杯で味わうアフリカ

今まで数回にわたって緑さんからご自身の活動で関わってこられたトラウマを抱える女性について話を伺ってきた。想像しながらその想像にも絶する過去を持つ人たちに会いに行くことは、遠足に行く気持ちとは全く違う。朝リリマに向かいながら女性たちの過去を振り返りながら現地に向かった。

まず、センターで職員が大歓迎で挨拶をし、ハグをしてくれた。センターを綺麗にして朝ごはんにと、パン、牛乳、ゆで卵を準備してくれた。正直に告白すると、牛が目の前に居るかのような獣臭がするミルクは、生のミルクを普段飲んでいる私でも厳しいものがあった。緑さんが、現地の方と生活を共にされているということのリアルをミルク一杯で少し飲み込んだ気がした。アフリカ3か国目の自分は、アフリカの人たちに近づこうとしたことがあったのだろうか…と考えさせられた瞬間。

4人の女性たちとの出会い

4人の女性の元を訪れた。

はじめの家庭はDV（家庭内暴力）で長年不仲だった家庭。

そのような過去があって今どう立ち直って生活しているのか想像がつかなかったのだが、DV、売春、酒、ドラッグにあっていた夫とは思えない明るい表情で家庭のなかでは頼もしい父であった。その女性は、訪問した私にできる限りのおもてなしをしてくれた。キャッサバとお豆を煮た食事を予め準備し、イギコマ（大豆、トウモロコシなど穀類の粉末を煮て粥状にしたもの）と共に振る舞ってくれたことに胸が一杯になった。



緑さんの大きな愛ある活動が人をここまで変えることが出来るものか、と。私も愛のお裾分けを頂いた。

二人目の女性は、貧困によるトラウマを抱えた女性だった。背中に負ぶう5か月の赤ちゃんを抱かせて貰った。おしっこをして洋服を着替えないといけなくなるまで抱いていた。くりくりお目めでしっかり見つめウアウアと何か話そうとしてくれていた。彼女の増改築中の家を訪問すると地域の人の中から働き手を探し手伝っている様子だった。

三人目の女性は、7人の子どもを育てているシングルマザーだった。大虐殺で負ったトラウマを抱えている。長女は16歳。子どもたちはみんな人懐っこく可愛い子どもたちだった。お客様仕様に緊張した面持ちでお行儀よく座っていた。大きい子どもたちは少し緊張がほぐれると、名前はなんていうの？と英語で質問してきたので、書いて教えると彼女たちもそれぞれの名前を書いてくれた。父親が違う子達は違う名前を持っているらしく、複雑な心境になった。

四人目の女性は、ミシンの供与により先生の弟子入りをしながら生計を立て始めた女性。彼女も大虐殺によりトラウマを抱えている。彼女のお店を訪ねると意欲的に洋裁に取り組んでいる様子が伺えた。



↑ 供与された自身のミシンで縫製をしている姿
← 彼女が注文を受け制作中の洋服

緑さんの寄り添う姿から見られる愛

どこに行っても「うんうん」、と常に笑顔で静かに頷いている緑さん。カウンセラー、スタッフを通して細やかな対応を心掛けていらっしゃる姿勢を目のあたりにした。カウンセラーとスタッフを絶対的に信頼され、任されておられることが、ご自身の決断に於いて指示を受け入れられ、的確な働きがなされているのだろう、と想像した。

どろどろぼこぼこの道を埃を被って歩いて訪問、時には自転車タクシーで移動しながら各家庭に寄り添っていらっしゃる姿勢は、そのものが愛を示しているのではないだろうか。電気や水も十分でない家屋で、それまでの人生で食してきたようなものとは全く違う食べ物を口にし、ご自分のリスクを負ってまで寝食を共にすることは、並大抵ではない。

この訪問は、緑さんへの理解をより深めるものとなり同じ日本人の女性として心からの尊敬の念を表したい。私にはとても真似をすることが出来る活動ではないのだが、自分の立場でできることはあると感じている。リリマへの訪問は、このような働きをしてくださっていることに感謝すると共に、自分に出来ることでお手伝いができれば、という想いを更に強く持たせてくれる機会になった。あの可愛いお目めで、緑さんの、そしてこの活動に掛けるスタッフの、愛ある支援を待っている子どもたちの将来のために。

望月 優子 さん

日本メノナイトブレザレン教団 石橋キリスト教会 会員

2006年4月国立京都国際会館営業部に勤務。2009年より夫の仕事でアフリカではザンビア・マラウィに駐在。その後、岩手・東京を経て2015年10月に家族でルワンダへ。2017年現在長男6歳と次男3歳の母。ザンビアではAAR(難民を助ける会)、孤児院でボランティア活動。現在、ルワンダではウムチョムイーザ学園にて図書室立ち上げと読み聞かせのボランティア活動中。